

令和7年7月15日

行政政策学類刑事政策ゼミ生が『プリズン・サークル』 上映後トークに登壇！（7/19）

行政政策学類刑事政策ゼミナール（指導教員・高橋有紀）の学生2名が、7月19日にフォーラム福島にて上映される映画『プリズン・サークル』の上映後トークに登壇し、保護観察官や仙台ダルク当事者スタッフと対談します。

多くの方に映画を通して、罪を犯した人たちの更生や、それを支える社会のあり方を考えるきっかけを提供したいと願っていますので、ぜひ来場の呼びかけ及び当日の取材方、どうぞよろしくお願いいたします。

記

日 時：令和7年7月19日（土）

上 映：12時40分～14時55分（上映後トーク：15時～16時）

場 所：フォーラム福島

登壇者：刑事政策ゼミ生2名、福島保護観察所保護観察官、仙台ダルク当事者スタッフ、（進行：高橋有紀・行政政策学類准教授）

その他：7月18日（金）17時30分の回上映後には、坂上香監督、福島刑務所長、福島保護観察所長の対談（進行：高橋有紀・行政政策学類准教授）もおこなわれます。こちらに関しましても、ぜひ事前の来場呼びかけ及び当日の取材にご協力いただければ幸いです。

坂上香氏によるドキュメンタリー映画『プリズン・サークル』は、島根県の官民共同運営型刑務所・島根あさひ社会復帰促進センターでの「治療共同体（TC）」プログラムを丁寧につづった作品で、2020年に公開された後、刑事法や犯罪者処遇の専門家に限らず、多くの人から注目を集めました。

刑事政策ゼミでは昨年度、同映画を基にした坂上氏の書籍『プリズン・サークル』（岩波書店、2022年）を輪読し、その登場人物らの生育環境やその背後にある社会の課題、出所し立ち直ろうとする彼らにとっての壁と希望について対話を続けてきました。このたびの上映後トークでは、そうしたゼミの学生が保護観察官や仙台ダルク（依存症回復支援施設）の当事者スタッフとともに、ゼミでの対話を踏まえ、映画の感想や罪を犯した人々の回復と立ち直りについて対談します。

先般の刑法改正により「拘禁刑」が導入されるなど、刑務所における「対話」を通じた処遇実践に社会的な注目が集まる一方、刑務所や罪を犯した人に限らず、対話のない組織や政治への閉塞感や絶望感が社会を覆う中、多くの人々が「対

話を通して人が変わる」ことの意味を考える機会になればと考えています。

なお、上映日程、鑑賞料金等についてはフォーラム福島のウェブサイト
<https://www.forum-movie.net/fukushima/movie/2436> をご参照ください。

刑務所や更生保護に関する取材活動の一環としてのご鑑賞、取材も歓迎いたします。

(お問い合わせ先)

行政政策学類・准教授 高橋 有紀

電 話：090-5033-9296

メール：y-takahashi@ads.fukushima-u.ac.jp